

一般財団法人 世界遺産白川郷合掌造り保存財団

平成 26 年度事業実績に関する書類

(平成 26 年 4 月 1 日から 27 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

事業は当財団の設立目的に基づき世界遺産集落とそれらを取り巻く地域の保全を中心とした事業を展開し、わが国の文化の向上と地域の振興発展に寄与する。

平成 26 年度の集落整備事業は例年同様に修理および修景助成等を行ったが、事業は全体的に減少傾向にある。定期的なメンテナンスの棟茅葺替、復旧農地の維持管理は例年通りではあるが、トタン屋根葺替・修景協力費助成については事業費ともに減少し、荻町集落の景観修景の安定を感じる。

自治保存会育成事業では長年お世話になっている「御殿場の茅」の生産現場である「富士山御殿場かやの里企業組合」の視察研修を行った。荻町地区の茅生産を目指す若手も参加し、茅場の維持保全や後継者育成・技術の伝承等、多くのことを学ばせていただいた。また、11 月には茅の機械刈りを行っている岩手県金ケ崎町へ出向き、機械化の仕組みや現状の問題点など情報収集を行い、茅自給率を上げるための始動の一年となった。

人材育成事業では本巣郡北方南小学校との交流を含めた白川小学校 5 年生の田植え体験をはじめ、2 年生のサツマイモづくりを一連とした授業への参画も増え、小学校との連携も深まっている。

受託事業では、せせらぎ公園駐車場の利用台数が普通車 115,104 台（前年比 4%増）、大型車（バス）19,545 台（前年比 7%増）と普通車は過去最高となった昨年を更に更新し、バスも微増を続けている。普通車の 10 万台突破は昨年より 18 日も早く、10 万台目のお客様は外国人観光客が増えている現状を表す様に、日本在住の外国人家族であった。また、路線・定期バス利用の通過型の一時滞在外国人も増加し、増発するバスと乗降による客により停留所が大混雑している光景は、今まで目にすることがなかった。

平成 26 年度は 3 月に開業した北陸新幹線の影響もあり、北陸方面からのレンタカーを中心とした観光客も増加し、新たな観光形態と外国人観光客増加による変化を実感した 1 年であった。

II 事業実績

■ 世界遺産合掌造り集落整備事業

1. 修理事業

ア 差し茅助成

数十年に 1 回の全面葺き替えのほかに、茅の風化によって腐食した部分的なくぼみや漏水箇所を補修するため、痛んだ部分に補修用の茅を差す作業。屋根葺と違い、足場を設置せず、非常に危険なので、最近では熟練者に依頼する所有者が多い。本年度の差し茅は修理棟数が 5 棟と平年並みであった。

イ 伝建物修理費助成

伝建物の維持に当たって、国庫補助事業であっても個人負担が過大であるため、非営業者に対してその一部および茅屋根部分における修理（営・非営業者）に財団が助成する。本年度は、主屋1棟の軸部修理に助成を行った。

ウ 棟茅葺替助成

合掌造りの最上部(棟)に置く茅は横置きのため、雨水が浸透し、腐食しやすい。そのため、毎年その横置きの棟茅を葺き替える必要があるが、この作業は、国庫補助対象外となっている。遺産地区には109棟の伝統的建造物に特定された合掌造りが存在し、毎年全棟分の必要経費に対する補助金が必要となる。当財団では、今後も合掌集落の良好な景観を保全していくために早急な修理が必要であると考え、その修理に対する助成を行う。今年度は補助対象108棟の伝統的建造物の内、83棟と全体の8割近い家が施工している。今後も全棟施工をめざして普及活動を促進する。

エ トタン屋根葺替助成

伝統的建造物に特定された建造物においても、主屋がトタン屋根のものや主屋は茅葺だが落屋がトタン葺のもの等トタンで葺かれた屋根は多い。これらトタン屋根の色を茅屋根の色彩に調和したものにすることで伝統的建造物の価値の維持を図る。今年度は1棟の助成を行った。

2. 修景事業

ア 修景協力費助成

住民の現状変更行為に対して付された許可条件にかかる上乗せ経費の負担を一部助成する。また、集落内に存在する440棟の建物のうち、合掌造りは4分の1の114棟。一般建造物の中には集落の景観に合わない建物も同居している。それらのうち、所有者の了解が得られるものから順に、移転あるいは除却もしくは外観修景を行ない景観の向上を図る。今年度は5棟と昨年3分の1で、減少傾向にある。

イ トタン屋根葺替

集落内には、合掌造り建造物の他に300棟あまりのカラートタン屋根の建造物が存在する。伝建物所有者が受ける補助と同等の屋根修理に対する補助を実施して、集落全体の保存コンセンサスの醸成を図る。今年度の助成対象は無かった。

ウ ビニールシート指定色奨励事業（差額補助）

生活関連のあるいは工事など、さまざまな行為に当たって使用されるビニールシートは、ほぼ全部が現在青色である。それらを、使用できなくすることは不可能であるため、景観阻害を和らげられるよう、目立ちにくい茶色シートの販売を奨励することとし、割高分を財団が助成する。なお、当初財団が、シートの各サイズをすべて買い上げて在庫として保有する計画であったが、小売店の協力が得られることとなり、小売店を通じての販売実績に対しての差額を助成する。今年度は昨年4倍近い180枚の茶色シートが売れ、その差額分の助成を行った。高速道路の2車線化など、工事に大量購入されるケースがあり利用される場所等を含め、委託している飛騨農協と販売時に検証を行うこととした。

エ 一般建築物茅屋根補修

遺産地区内には伝統的建造物に特定されていない茅葺屋根をもった建造物が5棟あり、その茅葺屋根の補修についても伝統的建造物と同様に毎年のメンテナンス経費がかかる。

これら5棟は伝統的建造物に特定されていないとはいえ遺産地区内における歴史的意義を持つものとしての役割を担っている。よって修景事業において助成を行う。今年度は4棟の補修を行った。

オ オダレ助成

オダレとは昔から白川村で使われてきた茅（ススキ）で編みこまれた簾状の雪囲いのことである。現在のように、輸入物の簾やトタン等の流入資材の普及する以前はこのオダレが雪対策を担ってきた。しかし、これら安価な新規資材の流入によりオダレ自体は当然のことオダレを作る技術までも消失しようとしている。また、白川村の降雪期間は6ヶ月と非常に長期にわたるため1年の半分は大半の建造物が雪囲いに覆われていることになり遺産地区の景観に与える影響は大変大きい。これらの理由から、伝統技術の保存、歴史的景観保全の観点からこのオダレに対する経費の助成を行う。今年度は8枚分に助成した。

3. 地域活性化事業

ア 自治保存会活動費助成

遺産地区の保存活動を行っている「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」に対し年間の活動費に対する助成を行う。平成26年度は例年通りの毎月の定例会の開催、機関紙「ねそ」の発行、遠方への研修・総会への参加、合掌施設管理など様々な取組を行った。

イ 人材育成事業

現在小学校では児童の地域社会に貢献する人材の育成をめざした「ふるさと学習」にあわせ、白川村の伝統文化から学ぶ授業を取り入れている。小学校教育の中で積極的に取り上げられることで次世代の遺産保存のための「人づくり」に繋がると考えられる。財団としてはこの計画に参画し積極的に教育活動を行う。今年度は本巣郡北方南小学校との交流を含めた白川小学校5年生の田植え体験、2年生を対象とした植付から収穫・感謝祭までのサツマイモづくり体験、景観保全学習につながる教材への助成を行った。

4. 水田復旧事業

復旧農地の維持管理・活用

現在、遺産地区内の水田総面積11.9ha（451筆）の内2.6ha（110筆）22%の水田が耕作放棄地となっている。放棄地が増加している要因は人手不足、高齢化、耕作意欲の欠如等の人的要因と湿田、農機が入らない等の立地的要因が挙げられる。耕作放棄地は放棄地そのものの与える景観的影響は当然であるが、その周囲の水田にも悪影響を及ぼす連鎖的な農地の荒廃化を促している。

事業の目的はこの悪循環を解消するための緊急対策として直接当財団において耕作放棄地の復旧を行うことで農地の荒廃化に歯止めをかけ、地区住民に水田の重要性を深く認識してもらい、農村景観の保全と観光農業振興から地域産業の創出へ寄与することを目的とする。

平成26年度は昨年同様、水田6,310㎡と畑70㎡の耕作を行った。また、米のブランド化および販売ネットワーク確立のため、「しんがいゆい米」として継続的に販売を行っている。

5. 啓発・啓蒙事業

ア 会報発行事業

年一回当財団の事業成果を公開する目的として会報発行事業を行っている。今年度も第17号を発行した。内容は「白川村地域おこし協力隊と合掌家屋活用について」と題し、白川村地域おこし協力隊 大倉 暁氏に執筆をいただいたほか、「自治保存会育成事業」「人材育成事業」「駐車場の入込

み分析」「会計報告」を掲載した。印刷物仕様A4 カラー8頁、印刷部数1,500部。配布先は白川村民全戸及び関係機関と村外の合掌基金寄附者で、基金寄附者には礼状を添えて約500部発送した。

イ 合掌財団ホームページ作成事業

当財団の情報公開を目的として、毎年情報の更新を行う。今年度もホームページの更なる充実を図るため随時内容の見直しと更新を行った。

ウ 白川郷遊歩ガイドの普及促進

財団発行の「白川郷遊歩ガイド」の普及促進を行う。

【26年度観光協会販売実績】

「白川郷遊歩ガイド」日本語版	475部
「白川郷遊歩ガイド」英語版	275部

エ 世界遺産合掌集落保存基金募金箱推進事業

今年度も民宿や土産物店等の観光営業所に合掌基金募金箱を設置させていただき募金箱の推進を行った。今年度の総募金額は254,356円であった。この募金箱の金額は遺産地区に訪れた人々の感動と保存活動に対する励ましの気持ちであると言える。この皆様からの志が地域の住民の方々にも伝わるような形で今後も募金箱の推進事業を行いたい。

■ 受託事業

1. せせらぎ公園小呂駐車場・寺尾駐車場管理運営業務受託事業

白川村の公共駐車場である「せせらぎ公園小呂駐車場」の管理運営業務受託事業を行う。

(受託内容)

- ・ 駐車場を公共の利用に供すること及び日常的な管理
 - ・ 駐車場の利用料金の徴収及び白川村への納付事務
- 今年度の利用者数は対前年比で普通車が4%、大型車が7%と増加した。

2. 総合案内「であいの館」施設管理運営受託事業

せせらぎ公園駐車場の受託と共に平成9年度から総合案内所の施設管理運営を受託事業として行っている。平成14年度からは一階の案内事務所に観光協会の本部も設置され、案内業務は全般観光協会が行っている。平成23年度には館の西側を増築し、コインロッカーの増設を行い観光客へのサービスを充実させている。

(受託内容)

- ・ 館を公共の利用に供する日常的な管理
- ・ 館の維持、消耗品の補充及び樹木、草花の育成管理
- ・ 館に配備された設備及び備品の維持管理